

研修通信

蔵王小学校
教研便りNo.4
2011（平成23年）
8月16日

研究テーマ

一感性を働かせながらつくりだすことを通して、豊かな表現力を育てる一
6月22日（水）図画工作科において第3回目の校内授業研究を行った。

題材名 「広がれつながれ」～カラフル ワールド～ 第3学年「A表現」（1）

1 題材の目標

- カラーポリ袋をつなげたり広げたりしながら、思いに合った形や色になるように取組もうとしている。（造形への関心・意欲・態度）
- カラーポリ袋の色の組み合わせや、いろいろなつなぎ方を考えている。（発想や構想の能力）
- いろいろなつなぎ方で、カラーポリ袋をつなぎ、つくるものの形や表し方を工夫している。（創造的な技能）
- 自分や友人のつなぎ方や広げ方の面白さに気付き、活動の楽しさを話し合いながら作品を味わう。（鑑賞の能力）

2 本時のめあて（2/3）

・カラーポリ袋の色の組み合わせ方や広げ方・つなぎ方を工夫し、楽しく活動する。

3 指導と評価の実際

本時の評価規準

イー① カラーポリ袋をつなげたり広げたりする活動を通して、形の面白さを味わい、形について自分なりのイメージをふくらませている。

共通事項

カラーポリ袋をつないだり広げたりする活動を通して、形の面白さを味わい、形について自分なりのイメージをふくらませている。

学習活動
めあて

評価規準・評価方法

イ 発想や構想の能力

（行動観察）

1 本時のめあてを確認する。

めあて カラーポリぶくろの色の組み合わせやつなぎ方をくふうして、つなげよう。

T 昨日とちがうところは？

C 前は普通のポリ袋だったけど、色が付いた。

T 今日、6色の組み合わせを考えます。広げてつないでみましょう。



2 約束の確認

・図工の時は、みんなで協力する。

3 班に分かれて活動開始

T どんなふうにつなげるのかな。
C ながくなるように。
T ふくらませると、ならべるのが両方あるんだね。



T 色はどんなふうにするの？
C 虹色になるようにするんだ。
T どうするの？
C (ジャッジ台の上から垂らす) 床でつないだものを垂らしていく。

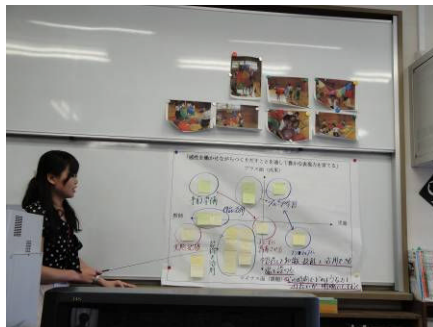
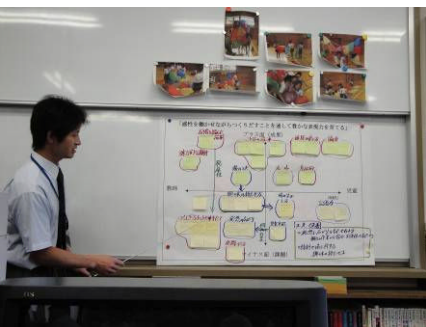
4 交流

- ・輪ゴムを使わずに結びました。
- ・一班では小さいから、3班とつなげました。
- ・色と色とが重ならないようにしました。

4 授業を受けての事後研修

○授業者から

今回も2年生の授業に続き連続して表現(1)の授業研究で、私たちは造形遊びについての授業づくりについて深めることができました。図画工作科の授業において、児童の実態把握・指導計画・各時におけるめあての設定が重要であることを確認しました。



- ・どこで、ひもや台を活用したらよいか迷った。
- ・色の組み合わせは、工夫していたがつなぎ合わせ方は、どうかと思った。

○成果として

- ・広い場の使い方や、前時までの活動が示され、前回の2年生での授業研究での成果が本時でも活用されていた。

○工夫改善点として

- ・発想の広がりをもたせるように個々の作業から始めて、主体性をもたせる。材料や場に対する興味の持たせ方を工夫する。(高学年)
- ・習得した知識・技能を活用できる場を設ける。この時間でどのような力を付けたいのか明確にしておく。(低学年)

○指導 助言(校長先生から)

- ・ねらいをもって授業をしているので、ねらいが達成できない場合には、途中でストップをしてねらいにもどる。ねらいに迫るために指導者は、第2、第3発問の準備をしておく。

自分自身の課題に戻して

・本時までの事前の授業で何を学ばせておくかを考える。

・習得した知識・技能が身についているか、しっかり確認したい。実態把握をしっかりして、つけたい力を決め、それに向かって授業をしていく。

・この時間、子ども達にどのような力を付けたいか、明確にして進める。

・どういう力をつけていくかを明確にもっておく。

・学級の実態把握を通して、どこが弱いからこの力をこう付けさせたいという思いを強く持って、図画工作の授業（その他すべて）を計画実践したいと思った。

・教師の準備の大切さもさりながら、興味を持たせ方の大切さ、重要性もかんじた。作業の途中でも、つなぎ方や場の生かし方など、手を止めて話し合う時間を設けることも必要だと感じた。

・クラスの中ではしっかり言えるけれど、改まった場においても自信をもって自分の考えが言える子を育てるには、どのように学級経営を進めればよいか、同僚と話していきたい。

・子どもの実態把握からつけたい力を明確にし、授業を構成していきたい。主体性の弱さは蔵王の子の課題であると思うので、図工の時間から各教科活動へとつながりをもたせてのびのびと活動させたい。

児童の実態把握をしてつけたい力を明確にした授業づくりをするという私たちの方向性が明らかになりました。児童の実態把握には、学級の枠をこえた職員間の情報交換も大切です。全職員で全校児童をみる姿勢を貫いていきましょう。

参考資料

学習指導要領 P15 より

材料を基に造形遊びする」内容は、単に遊ばせることが目的ではなく、進んで楽しむ意識をもたせながら、発想や構想、創造的な技能などの能力を育成する意図的な学習である。

指導に当たっては、育成する資質や能力の観点から、活動と材料などの関係に配慮する必要がある。例えば、材料からの発想を豊かにするために、材料の種類や量を豊富に用意する必要がある。材料からの発想を深めるために、材料の種類や量を少なくする方法もある。創造的な技能を高めるために、材料や用具の経験を総合的に生かすような題材を構成する。体全体を使って長く並べたり高く積んだりできる場所を工夫するなどが考えられる。また、児童の資質や能力は、活動そのものに現れることが多いことから、活動の様子を写真などの映像で記録し、評価に役立てることも大切である。

造形遊びの評価方法も工夫していきたいですね。

